



レスポンシブル・ケア報告書 2005

お問い合わせ先 環境・安全部
〒103-8552 東京都中央区日本橋浜町3-3-2
TEL : 03-3249-4686 FAX : 03-3249-4709
E-mail : rcare@kureha.co.jp
<http://www.kureha.co.jp/>

当社のホームページの「会社案内」から「環境ケアの取り組み」を選択していただくと、当社が発行した「レスポンシブル・ケア報告書」をご覧になれます。ご意見・ご要望などは、左記にご連絡下さい。



200510-40M

株式会社クレハ

目次

ご挨拶	
1. RC活動の概要	2
1-1. RC実施宣言	
1-2. RC取り組み体制	
1-3. RCマネジメント・システム	
1-4. マネジメント・システムの認証取得状況	
1-5. RC活動の総括表	
2. コンプライアンスの実践	5
3. 環境会計	6
4. 環境負荷の低減に対する取り組み	7
4-1. 環境負荷の全体像	
4-2. 地球温暖化防止	
4-3. 大気汚染防止	
4-4. 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	
4-5. 水質汚濁防止	
4-6. 臭気対策	
4-7. 環境保全対策投資	
4-8. 産業廃棄物の排出量削減とリサイクル	
5. 保安防災・労働安全衛生に対する取り組み	14
5-1. 保安防災	
5-2. 労働安全	
5-3. 保安防災・労働安全対策投資	
6. 製品安全に対する取り組み	16
6-1. 製品安全・品質保証	
6-2. グリーン調達	
7. 地域社会とのコミュニケーションに対する取り組み	18
8. 環境保全商品の開発に対する取り組み	19
9. グループ会社のRC活動	20
クレハプラスチック株式会社	
加古川プラスチック株式会社	
クレハエクステック株式会社	
クレハ合繊株式会社	
呉羽運輸株式会社	
クレハ建設株式会社	
株式会社クレハエンジニアリング	
呉羽環境株式会社	
株式会社クレハ分析センター	
レジナス化成株式会社	

事業内容

クレハ・グループは、機能製品、化学製品、樹脂製品の製造・販売をその主な事業内容とし、更に各事業に関連する設備の建設・補修、物流、環境対策及びその他のサービス等の事業活動を行っております。

当社の製品は、電気・電子分野、自動車の素材等として使用される機能樹脂から、ご家庭で使用される食品用ラップ、また抗悪性腫瘍剤、慢性腎不全用剤といった医薬品まで、幅広く人々の生活に関わっております。

会社概要

- 創立 1944年(昭和19年)6月
- 資本金 124億6千万円
- 売上高 1,304億円(連結) 802億円(単独)
 主要品目：機能樹脂 / 炭素製品 / 無機薬品 / 有機薬品 / 医薬品 / 農薬 / 農材 / 食品包装材 / 家庭用品
- 従業員数 3,793人(連結) 1,386人(単独)
- 国内事業所 本社 東京
 支店 大阪
 営業所 札幌 / 仙台 / いわき / 名古屋 / 福岡
 工場 いわき(福島県)
 研究所 総合研究所(いわき)
 生物医学研究所(東京)
 包装材料研究所(石岡)
- いわき工場概要 敷地面積：112万m²
 製造品目：百数十品目
- グループ会社(連結子会社) 35社(国内25社・海外10社)

2005年3月31日現在

本報告書の対象範囲

本報告書は、当社の生産拠点における2004年度のレスポンス・ケア活動を中心に記載しています。

各種データは、当社の生産拠点(敷地内のグループ会社を含む。)におけるものの他、当社とともにレスポンス・ケア活動を行っている下記10社のデータも一部に併記しています。

クレハプラスチック(株)	加古川プラスチック(株)
クレハエクステック(株)	クレハ合繊(株)
呉羽運輸(株)	クレハ建設(株)
(株)クレハエンジニアリング	呉羽環境(株)
(株)クレハ分析センター	レジナス化成(株)

当社は、昨年創立60周年を迎えました。これを機に、“新生クレハ”としてエクセレント・カンパニーを目指して新たな気持ちで挑戦し続ける決意をしました。このため、自らのアイデンティティ(存在意義)の確立と進むべき方向性を明確にし、社内外に発信することが重要であり、好機であると捉え、CI(コーポレート・アイデンティティ)推進委員会のもと、「当社の目指すべき方向」、「企業理念」、企業理念に基づく社員の「行動基準」を三位一体として、当社のアイデンティティとして制定しました。また、2005年10月には、「呉羽化学工業株式会社」から「株式会社クレハ」に社名を変更しました。化学工業にとらわれず、事業拡大を続け飛躍することを目指していきます。さらに、IT化への対応、グループ会社オフィス集約による業務効率の向上、職場環境の改善を図るため本社を移転しました。このように、“新生クレハ”として挑戦し、飛躍すべき態勢は出来ました。従業員一人一人がアイデンティティを理解し、活動して初めて達成可能であり、新たな気持ちで挑戦を続けます。

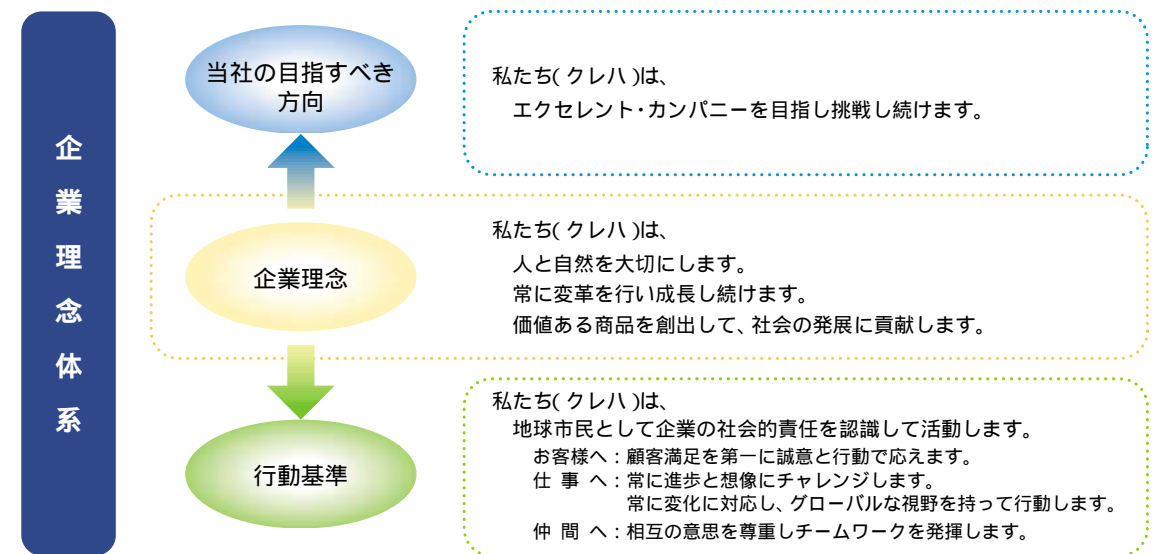
さて、2004年度はコンプライアンス(法令・社会規範の順守)重視の企業風土を一層根付かせるため、全員参加のコンプライアンス教育を行いました。また、2003年から始めた本社・支店営業所へのISO9001の認証取得を関連営業部署全てに拡大し、その浸透を図りました。2005年2月には京都議定書が発効し、地球温暖化問題は新たな段階に入りました。「持続的発展が可能な社会構築」は、法的な整備はもちろんです。各企業が自主的に行うレスポンス・ケア活動の継続的推進が不可欠です。今後も地域社会の一員であり、また地球市民であると強く認識し、自然や生活環境に配慮する取り組みを推し進めるとともに、クレハ・グループとしてレスポンス・ケア活動の一層のレベルアップを図っていきます。

このレスポンス・ケア報告書は、2005年3月までの当社の状況を中心にまとめたものです。この報告書をご覧いただき、皆様のご理解を得るとともに、今後の活動に向けて忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

2005年10月



代表取締役社長
田中 宏



1 RC活動の概要

1-1 RC実施宣言

当社は、日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)に創設時より参加し、1995年4月に「レスポンシブル・ケア(RC)」の実施を社会に宣言しました。

レスポンシブル・ケア実施宣言

当社及び当社のグループ各社は、地球環境の保全、人の安全と健康の確保は企業活動の根幹と考え、企業の社会的責任であるとの認識の下に、レスポンシブル・ケアの実施を宣言します。当社及び当社のグループ各社は、次の「レスポンシブル・ケア方針」の下に、実施計画を策定し実行していきます。
この方針は、当社及び当社のグループ各社のすべてに共通に適用されるものです。

1995年4月20日
2002年7月1日・・・一部改訂
2005年10月1日・・・一部改訂

株式会社クレハ

レスポンシブル・ケア方針

国際規則や法令を守ります
私達は、保安防災、労働安全衛生、製品安全及び地域生活環境を含む地球環境の保全について、国際規則や国内の法令を守るとともに、日本化学工業協会が推進するレスポンシブル・ケア活動に積極的に参画します。

地球環境に配慮し、安全な操業をします
私達は、事業活動において地球環境の保全に配慮し、操業においては従業員や市民の安全と健康を守り、事故、災害、公害を起こさないよう努力します。

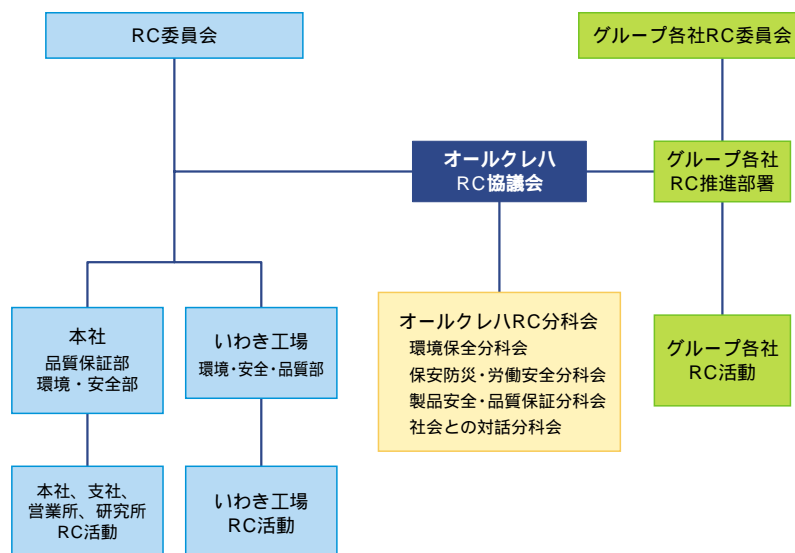
安全な製品を社会に提供します
私達は、社会の要求を素早く的確に把握し、製品作りに生かし、お客様が安心して使用でき、信頼していただける製品とサービスを提供していきます。
また、私達は、製品の研究・開発から生産・販売を経て廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたり、安全性、信頼性、環境への影響について配慮した製品とサービスを社会に提供します。

環境・安全の情報を管理し、役立てます
私達は、製品の正しい取り扱いや処理方法、環境、保安、防災に関する適切な情報を集中管理し、消費者、ユーザー及び製品納入に関連する企業等に提供します。

社会とのより良い関係を築きます
私達は、行政当局や市民の関心に留意し、環境・安全情報を提供して社会に対して正確な広報活動を行い、また、市民社会の活動へも市民として積極的に参加し、社会とのより良い関係の維持と構築に努めます。

1-2 RC取り組み体制

クレハ・グループの「レスポンシブル・ケア」活動は、RC委員会を中心に推進しています。委員会の下部組織としてクレハ・グループ各社のRC責任者がメンバーとなっているオールクレハRC協議会があります。協議会には、環境保全、労働安全・保安防災、製品安全・品質保証及び社会との対話の4つの分科会が置かれています。各分科会では、クレハ・グループのRCの課題について意見交換し、具体的な解決策の取りまとめ等をおこなっています。



1-3 RCマネジメント・システム

クレハ・グループでは、環境保全については環境マネジメント・システム(ISO14001)、製品安全については品質マネジメント・システム(ISO9001シリーズ)、労働安全衛生・健康については労働安全衛生マネジメント・システム(OHSAS18001)を導入して、RCマネジメント・システムを構築して、PDCA(Plan/計画、Do/実行、Check/検討、Act/対策)サイクルをまわし向上を図っています。

環境マネジメント・システム

当社は、環境保全をより効果的に推進し環境パフォーマンスを継続的に改善する環境マネジメント・システム(ISO14001)を推進しています。当社の生産拠点であるいわき工場では、大気、水質、廃棄物などの環境負荷物質の削減や、省資源、省エネルギーに対しPDCAサイクルを回し、積極的に推進しています。

品質マネジメント・システム

当社は医薬品及び健康食品を除く全ての製品について営業から製造まで一貫した品質保証マネジメント・システム(ISO 9001)を運用し、高品質の製品をお客様に提供する仕組みを推進しています。常にPDCAサイクルを回すことにより継続的改善を推進し、お客様がよりご満足いただける製品の提供に取り組んでいます。医薬品及び健康食品に関しては2005年度から薬事法に定められた品質管理システムの運用を開始し、安心してお使いいただける製品の提供に引き続き努めます。

労働安全衛生マネジメント・システム

いわき工場は、スペシャリティー製品群を製造する世界トップレベルの生産拠点を目指して、働くすべての人たちに対して安全と健康を優先した活動を推進しています。2004年6月に労働安全衛生マネジメント・システム(OHSAS18001)を認証取得し、全員ですべての作業に潜む危険源を特定し、評価・改善計画を策定し、リスクレベルの高いものから優先して改善活動を行なっています。グループ会社に於いても労働安全衛生マネジメント・システムの導入が計画され、クレハ・グループの労働安全衛生活動のレベルアップを図っています。



当社の生産拠点であるいわき工場では、2003年度に環境保全、労働安全衛生、保安防災、品質保証、エネルギー管理及び地域交流を一元的に管理運営する「いわき工場レスポンシブル・ケア活動体制」を構築し、新たな統合マネジメント・システムとして実施しています。

1-4 マネジメント・システムの認証取得状況

グループ会社の各種マネジメント・システムの認証取得状況を一覧表にまとめました。

マネジメント・システム認証取得状況

	環 境	品 質	労働安全衛生
株式会社クレハ	2001年5月	1996年2月	2004年6月
クレハプラスチック株式会社	2002年11月	1996年2月	2006年3月予定
加古川プラスチック株式会社	2004年7月	1994年7月	
クレハエクステック株式会社		1999年2月	
クレハ合繊株式会社	2005年3月	成形部門 2003年4月 全社 2004年10月	
呉羽運輸株式会社		2001年8月	
クレハ建設株式会社	2005年7月	2000年12月	2006年1月予定
株式会社クレハエンジニアリング	2004年12月	2002年4月	
呉羽環境株式会社	1998年3月		
株式会社クレハ分析センター	2001年5月	いわき工場関連部署 1996年2月 全社 2006年予定	
レジナス化成株式会社	2004年4月	2000年7月	

1-5 RC活動の総括表

目的	目標	2004年度計画	2004年度実績
全般	マネジメント・システムの定期的評価と効果的・効率的運用	労働安全衛生マネジメント・システム(OHSAS18001)の認証と運用の開始及び継続的改善を図る。	6月に労働安全衛生マネジメント・システムを認証取得し運用を開始しました。
環境保全	化学物質の大気排出量削減	PRTR法対象物質の大気排出量を削減	環境対策を実行し前年比24%を削減しました。
	産業廃棄物の削減	2000年度を基準として2010年度に産業廃棄物(焼却処理量と埋立処理量の和)を半減するための自主計画の実行	前年度より817トン削減しました。
保安防災	重大災害ゼロ	1種・2種事故ゼロ(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・1種事故ゼロを達成しましたが、2種事故が5件発生しました。 ・事故調査委員会で事故原因の究明と対策を図り類似事故防止を徹底しました。
労働安全衛生	重大労働災害ゼロ	休業災害・不労災害ゼロ(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・休業災害1件が発生しました。(2004.1～2004.12期は0件) ・OHSAS18001をリスクの低減に活用し成果を上げています。
製品安全・品質保証	顧客満足度の向上	製品苦情の低減と顧客対応の迅速化	関連部署の連携強化とシステムの改善により効果をあげています。
資源保護	エネルギー及び資源の有効利用	エネルギー原単位1%/年削減	エネルギー使用量は減少しましたが、生産量が減ったためエネルギー原単位は増加しました。
地域交流	地域とのコミュニケーションの継続と強化	レスポンス・ケア(RC)地域対話集会の開催 双方向コミュニケーション紙「にしき」の充実と活用	第2回RC地域対話集会を開催しました。従業員を含め地域住民の信頼と理解を深めることが出来ました。

(1)1種事故、2種事故とは：1種事故とは環境、設備等に重大な影響を与える事故を指し、2種事故とは環境、設備に影響を与える事故を指します。
 (2)休業災害、不労災害とは：厚生労働省の労働災害状況の統計という休業災害、不労災害の基準に従っています。

当社は、2003年6月に制定された「クレハグループ倫理憲章」に則り、クレハ・グループ全体でコンプライアンス(法令及び社会的規範の順守)の徹底を図ることを宣言し、これに基づき、「コンプライアンス規程」を制定するとともに、「コンプライアンス委員会」を発足させました。

さらに、これらの体制に実効性を持たせるため、体制の概要、行動基準、コンプライアンス相談窓口の利用方法などを纏めた小冊子「コンプライアンス・ハンドブック」を作成し、役員・従業員に配布の上、教育などを行いました。また、コンプライアンスを含む内部統制の強化をシステム的に実現するために、社長直轄の組織として、内部監査部を設置しております。

2005年4月に全面施行された個人情報保護法に対しては、個人情報保護コンプライアンスの体制を構築し、保護に努めております。

一方、クレハ・グループ各社においても、「クレハグループ倫理憲章」に則り、「コンプライアンス規程」などを制定し、コンプライアンスを実践するための体制整備を行っております。

また、各社にて行動基準を制定し、関連資料を作成の上、役員・従業員に配布し教育などを行っており、クレハ・グループ全体として、コンプライアンスの実践を徹底しています。



コンプライアンス研修会

3 環境会計

当社は、効率的かつ効果的な環境保全対策の実施を目指しています。2004年度の環境会計として、環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、事業活動における2004年度の環境保全に係る経費及び設備投資について、項目別に集計した金額と主な取り組み内容及び効果を纏めました。

この報告書で環境会計情報を公表することは、皆様に当社の環境保全への取り組み状況を理解し評価して頂くための有効な手段と考えています。

集計範囲：株式会社クレハ 対象期間：2004年4月1日～2005年3月31日 単位：百万円

環境保全コスト				
分類	経費	投資額	主な取り組みの内容及び効果	
1.事業エリア内コスト	1,212	949		
内訳	1-1.公害防止コスト	808	918	大気、水質、臭気、化学物質排出削減等の公害防止対策 ・SOx排出量 153トン(対前年度20%減少) ・NOx排出量 1,131トン(対前年度7%減少) ・COD排出量 123トン(対前年度3%減少) ・BOD排出量 71トン(対前年度13%減少) ・PRTR法対象物質排出量 154トン(対前年度24%減少)
	1-2.地球環境保全コスト		28	省エネルギー対策等 ・CO ₂ (炭素換算) 132千トン(対前年度3%減少) ・エネルギー原単位指数 80(対前年度8%増加)
	1-3.資源循環コスト	404	3	廃棄物処理、リサイクル等 ・廃棄物発生量 11,537トン(対前年度0%減少) ・廃棄物最終処分量 2,152トン(対前年度35%増加) ・廃棄物リサイクル率 18%(前年度リサイクル率22%)
2.上・下流コスト	14		低硫黄重油の使用、容器包装再商品化委託費用等	
3.管理活動コスト	76		環境負荷監視、エリア内緑化、EMS構築・運用等 ・RCマネジメント・システムの維持 ・クレハ・グループ各社のレスポンシブル・ケア活動推進 ・レスポンシブル・ケア報告書の発行	
4.研究開発コスト	1,342		環境配慮型製品・プロセス・物流各段階の研究・開発 ・グリーンプラスチックの開発 ・新規包装材・包装体の開発	
5.社会活動コスト	19		地域住民に対する情報提供等、地域との共生 ・レスポンシブル・ケア活動地域対話集会開催 ・双方向コミュニケーション紙「にしき」の発行 ・地域清掃美化活動等に参加 ・景観保持	
6.環境損傷対応コスト	6		環境負荷の影響の除去対策、環境の損傷に対応する引当金繰入額及び保険料	
総計	2,669	949		

4 環境負荷の低減に対する取り組み

当社は、1944年の創立以来、技術導入に頼ることなく、あくまで独自の発想で新分野に挑戦し事業を拡大してきた技術開発型企業です。環境負荷低減についても独自の技術を開発してきました。当社の生産拠点は福島県いわき市錦町に立地するいわき工場です。いわき工場の敷地面積は112万m²(34万坪)と広く、この敷地の中で、多種多量の化学物質を取り扱い、自製した電力及びスチームを主エネルギー源として、機能樹脂、炭素製品、合成樹脂、無機薬品、有機薬品、医薬品、農薬、農業用資材の生産部門を集約した集中型工場です。周辺には、物流、建設、エンジニアリング、産業廃棄物処理、検査・分析などを専門とするグループ会社があります。

4-1 環境負荷の全体像

いわき工場の事業活動全体における主要なインプット(資源投入)とアウトプット(製品と環境負荷)を整理しました。



PRTRとは：工場から排出したり、廃棄物として移動したりする化学物質の量を事業者が集計して国へ届け出る制度です。

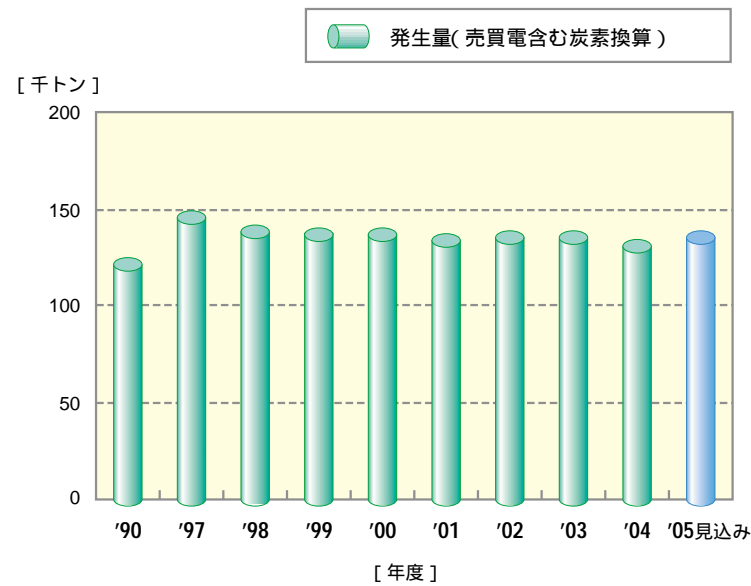
4-2 地球温暖化防止

1997年12月に「気候変動枠組条約の第3回締約国会議(COP3)」が京都で開催され、いわゆる京都議定書としてまとめられました。2005年2月に55カ国が批准し正式に発効しました。地球温暖化を促進する温室効果ガスとして二酸化炭素、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六フッ化硫黄、メタンの6種類が対象として指定され、二酸化炭素については1990年が基準年となっています。いわき工場では二酸化炭素のみが対象となっています。

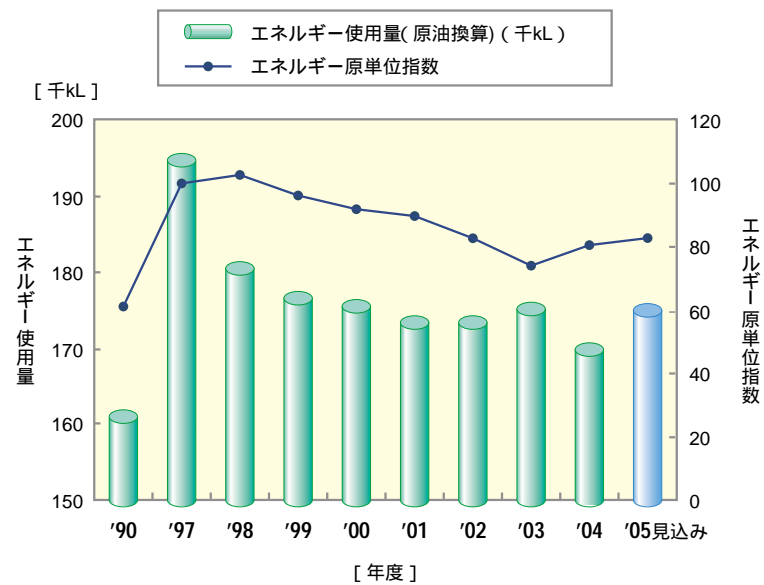
今後はいわき工場の電気や熱の管理だけでなく、運送における二酸化炭素や間接部門の二酸化炭素の把握や削減にも取り組んでいきます。

1997年度と比較して、2004年度は二酸化炭素(炭素換算)は約10%、エネルギー使用量については約12%削減しました。いわき工場ではボイラーの老朽化に伴う更新工事を実施しています。新しいボイラー稼働する2006年4月以降は、ボイラーの更新により更に環境負荷が軽減する予定です。

二酸化炭素発生量(炭素換算)



エネルギー使用量及び原単位指数



エネルギー原単位指数とは：省エネ法に基づく1997年度の原単位(=エネルギー使用量÷付加価値生産額)を100とした各年度の指数

4-3 大気汚染防止

いわき工場は、いわき市と大気汚染防止に関する公害防止協定を結び、硫黄酸化物(SOx)の排出量の上限を定めています。また、窒素酸化物(NOx)及びばい塵の排出量上限は、いわき市との協議のうえ、いわき工場で自主管理値として定めています。現在のいわき工場は、これらの値を十分に達成した運転を継続しています。

2006年4月以降は、ボイラーの更新により更に環境負荷が軽減する見込です。

SOx排出量

オイルコークス、重油等を燃焼する際、その燃料に含まれる硫黄分がSOxとなり、排出ガスに含まれ排出されています。脱硫設備によりSOxの大部分は亜硫酸ナトリウムとして回収されています。ボイラーが主な発生源です。

新ボイラーから排出されるSOx量は、現在のボイラーより約20%低減される見込です。

NOx排出量

燃料が燃える際に、燃料に含まれている窒素や燃焼用空気中の窒素が酸素と結合して窒素酸化物(NOx)が発生します。ボイラーが主な発生源です。

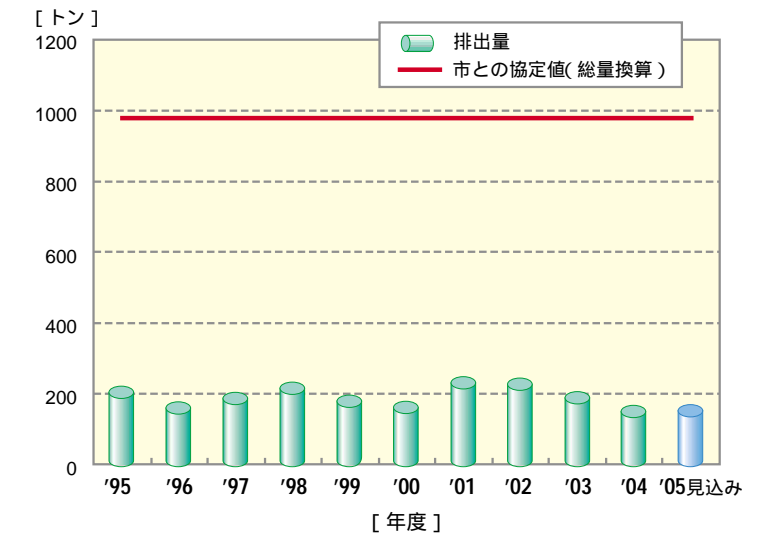
新ボイラーから排出されるNOx量は、現在のボイラーより約60%低減される見込です。

ばい塵排出量

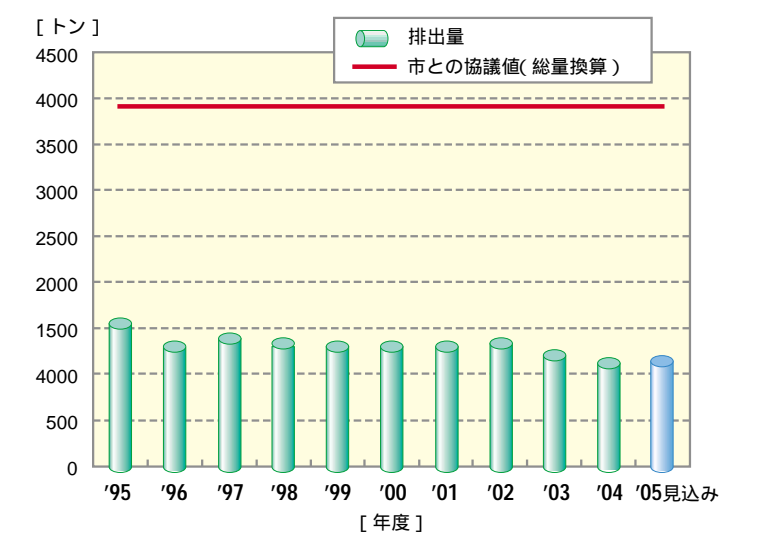
大気中に浮遊する粒子状の物質のうち、燃料等の燃焼や電気炉等の使用に伴って発生する煤をばい塵と呼んでいます。ボイラーが主な発生源です。

新ボイラーから排出されるばい塵量は現在のボイラーより約50%低減されます。

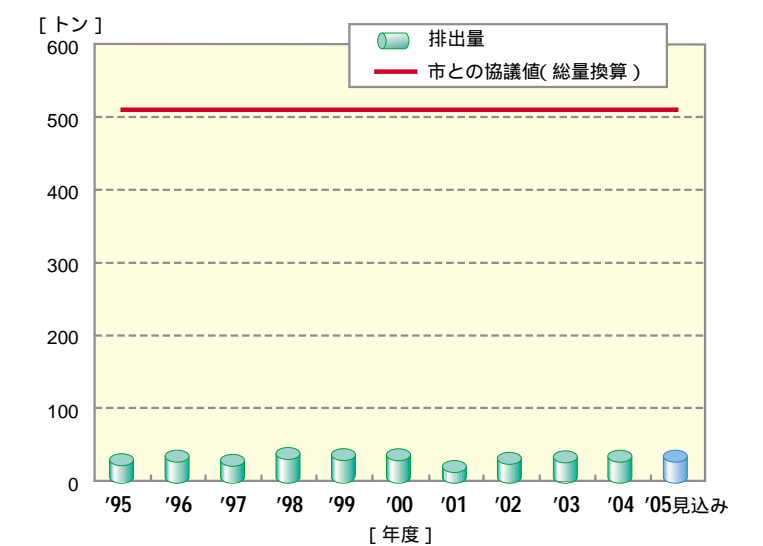
SOx排出量



NOx排出量



ばい塵排出量

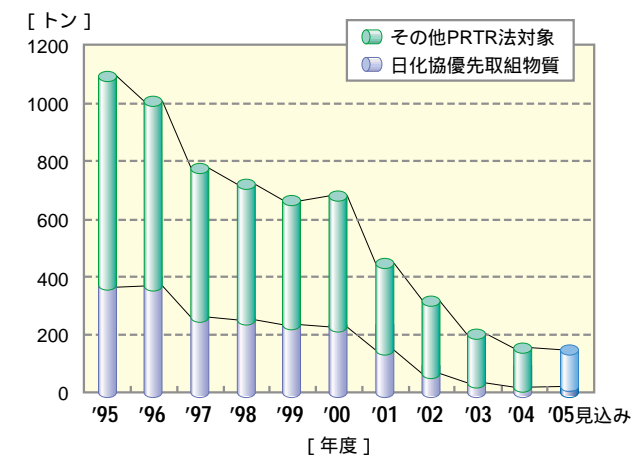


4-4 化学物質排出把握管理促進法(PRTTR法)

PRTR法とは、事業所から事業活動に伴って大気や公共水域に排出されたり、廃棄物の形で事業所外に移動したりする化学物質の量を、事業所毎に把握・集計して国に届出し、国が毎年公表する制度です。PRTR法は、事業者が自主的に排出量等の削減を推進していく事を目的とした法律で、届出の対象となっている化学物質は、現在354物質あります。いわき工場の2004年度の届出数量は計152トンでした。

また、PRTR法施行以前から化学工業界では日本化学工業協会(日化協)を中心に、優先取組物質を決めて排出削減に取り組んできましたが、いわき工場の2004年度のその排出量は17トンでした。

PRTR対象化学物質排出量



2005年度 PRTR法届出値(2004年度実績)

政令番号	物質名	排出量(kg)				移動量(kg)	
		大気	公共水域	土壌	事務所内埋立	下水道	事務所外
いわき工場の届出値							
1	4	アクリル酸エチル	130	0	0	0	30
2	6	アクリル酸メチル	68	0	0	0	0
3	7	アクリロニトリル	350	470	0	0	3,300
4	9	アジピン酸-ジ-2-エチルヘキシル	0	0	0	0	22
5	13	2,2'-アゾビスイソブチロニトリル	0	0	0	0	0
6	15	アリニン	0	0	0	0	2,700
7	24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(C10-C14)	0	0	0	0	2
8	31	2,2'-(イソプロピリデンビス[(2,6-ジプロモ-4,1-フェニレン)オキシ])ジエタノール	0	0	0	0	70
9	43	エチレングリコール	0	0	0	0	0
10	44	エチレングリコールモノエチルエーテル	3,100	0	0	0	0
11	63	キシレン	12	1	0	0	0
12	67	クレゾール	0	0	0	0	0
13	77	塩化ビニル	14,000	0	0	0	0
14	84	1-クロロ-1,1-ジフルオロエタン(HCFC-142b)	3,000	0	0	0	14,000
15	85	クロロジフルオロメタン(HCFC-22)	1,700	0	0	0	0
16	93	クロロベンゼン	13,000	18	0	0	300
17	95	クロロホルム	290	100	0	0	27,000
18	117	1,1-ジクロロエチレン	89,000	4	0	0	110,000
19	118	cis-1,2-ジクロロエチレン	0	0	0	0	46,000
20	119	trans-1,2-ジクロロエチレン	0	0	0	0	53,000
21	139	o-ジクロロベンゼン	590	16	0	0	190,000
22	140	p-ジクロロベンゼン	9,100	28	0	0	130,000
23	144	ジクロロペンタフルオロプロパン	380	0	0	0	1,700
24	177	スチレン	2,700	19	0	0	2,100
25	179	ダイオキシン類(単位: mg-TEQ)	0,0116	17	0	0	2,400
26	210	1,1,2-トリクロロエタン	190	6	0	0	17,000
27	211	トリクロロエチレン	0	0	0	0	410,000
28	227	トルエン	0	1	0	0	3,100
29	255	4-ビニル-1-シクロヘキセン	3,400	2	0	0	0
30	266	フェノール	3,900	0	0	0	6,000
31	268	1,3-ブタジエン	1,400	20	0	0	18
32	299	ベンゼン	1,100	6	0	0	400
33	319	メタクリル酸n-ブチル	110	0	0	0	0
34	320	メタクリル酸メチル	3,400	0	0	0	590
35	321	メタクリロニトリル	26	0	0	0	1,200
36	335	-メチルスチレン	0	0	0	0	1,600
包装材料研究所の届出値							
1	145	ジクロロメタン	2,000	0	0	0	0

PRTR法対象物質(第一種指定化学物質)で、年間取扱い量1t以上の物質についての届出値です。事業所外へ移動した物質は廃棄物処理業者へ委託処理し、全て焼却処分しています。

4-5 水質汚濁防止

いわき工場は従来、排水については水質汚濁防止法と福島県条例(生活環境の保全等に関する条例及び水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例)に定められた排出基準を守る事を基本に操業してきました。2001年度には、工場排水放流先となっている河川の水環境をより一層改善することを目的として、微生物の力を利用する水質浄化設備(ジャリッコ)を導入しました。この設備は、それまでの散水濾床方式の設備よりも高効率で工場排水を浄化できるようになっています。

COD排出量

化学的酸素要求量(COD)は2000年度と比べてより約35%の削減を達成し、維持しています。今後も削減に努めていきます。

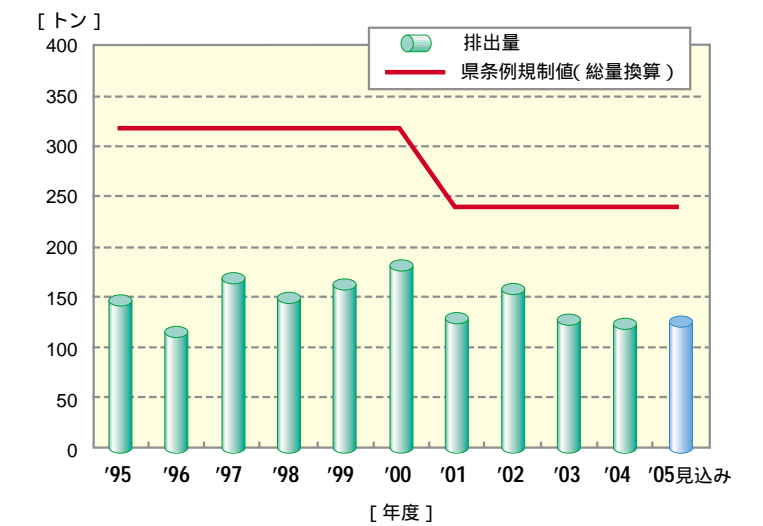
BOD排出量

生物化学的酸素要求量(BOD)は2000年度と比べて約75%の大幅な削減を達成し、維持してきました。しかし、KPS樹脂の増産などにもない2004年度以降BOD排出量の増加が予想されたため、新たな対策を進め、現状より増やさないよう検討しています。排水浄化設備(ジャリッコ)は、生物の力を利用した排水浄化を行っています。そのため、CODよりもBODの削減により大きな効果を発揮しています。今後も削減に努めていきます。

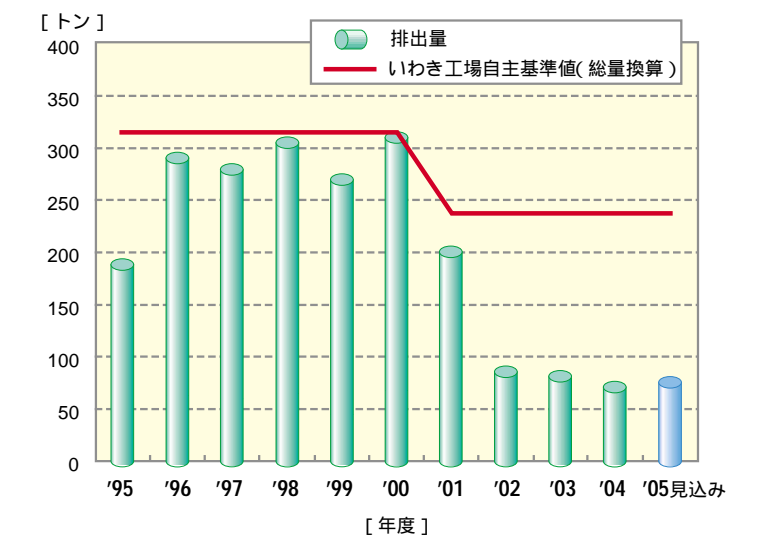
県条例規制値とは：いわき工場は、『福島県水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例』により工場排水CODの濃度規制を受けています。その条例に定められている排水基準を基に算出(濃度×排水量)したCOD総量換算値です。2001年度以降は排水量を削減したため、COD量としての規制値が低下しています。

いわき工場自主基準とは：いわき工場におけるBODの濃度規制は、水質汚濁防止法の規制を受けています。しかし、前述の条例に定められているBOD排出基準の方が厳しい規制となっているため、条例の基準を自主基準と定めて管理しています。その自主基準を基に算出したBOD総量換算値です。このBOD量自主基準もCODと同様に排水量削減により低下しています。

COD排出量



BOD排出量



4-6 臭気対策

いわき工場では工場敷地境界に配置した臭気センサーによる臭気監視を行っています。この臭気センサーは常時監視と共に臭気発生時の空気の採取を行う機能を持っています。

さらに工場周辺に居住している従業員から臭気モニターを選び、臭気苦情が発生した時に空気の採取、分析を実施して臭気発生源を特定できるようにしています。その特定した臭気発生源に対して発生抑制対策を実施できるように体制を整えています。

2004年度は臭気センサー等から得られた情報をもとにした新たな臭気発生抑制設備を設置し、臭気の発生抑制に効果を上げています。



臭気センサー(臭気自動モニタリング・採取システム)
敷地境界に設置されたセンサーが一定レベル以上の臭気を検知すると、制御室に警報を発すると共に空気を自動的に採取します。

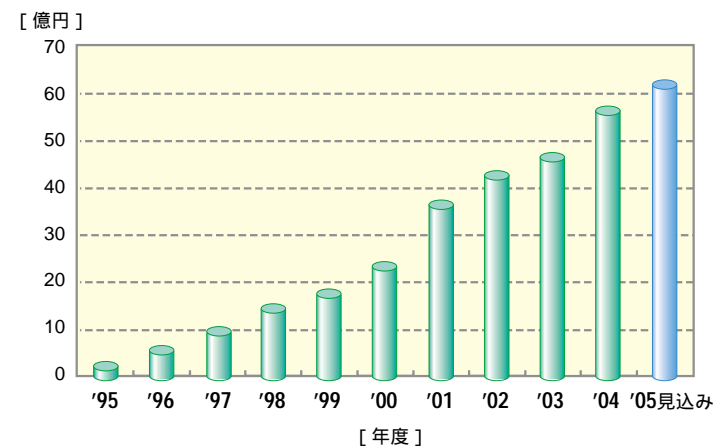


保安課棟の制御室
24時間体制で監視しています。



臭気センサー等から得られた情報を元に導入した新たな臭気発生抑制設備

環境保全対策投資累積額



4-7 環境保全対策投資

2004年度の環境保全対策投資額は、949百万円でした。その内訳は次のとおりです。

大気汚染防止関係	約474百万円
水質汚濁防止関係	約444百万円
省エネ関係	約11百万円
廃棄物処理関係	約3百万円
その他環境保全	約17百万円

4-8 産業廃棄物の排出量削減とリサイクル

いわき工場は、隣接する廃棄物処理会社である呉羽環境(株)へ産業廃棄物の処理を依頼しています。また、いわき工場は自社で管理型の最終処分場を持つなど、事業活動から排出される産業廃棄物の処理は重要な企業責任であるとの考えで操業してきました。

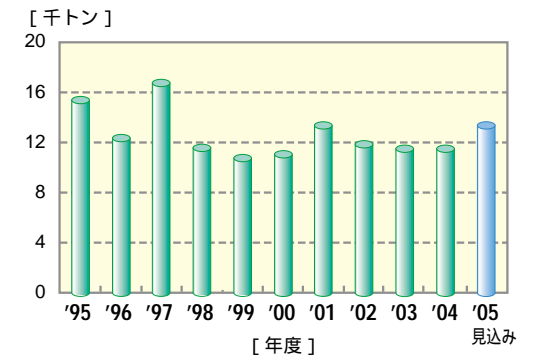
産業廃棄物の発生削減に向けて、2000年度を基準として2010年度に焼却と埋立の総量を半減するための自主計画を策定し実施しています。リサイクルしている廃棄物(ボイラー未燃カーボン等)は、セメントの原料等として有効に活用しています。

今後とも廃棄物量の削減と、リサイクル率の向上に努めていきます。

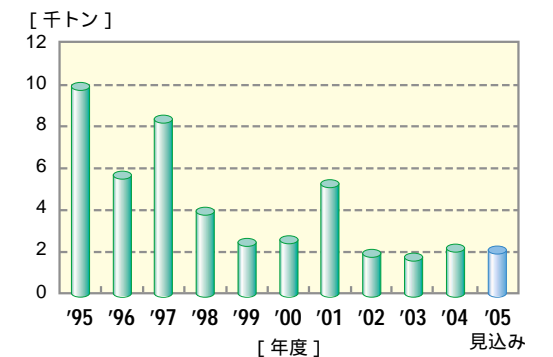
廃棄物最終処分量とは：焼却により減容された廃棄物等を最終処分場に埋立処理した量です。

廃棄物リサイクル率とは：リサイクル使用した廃棄物と廃棄物の発生量の比(リサイクル量÷廃棄物発生量)です。

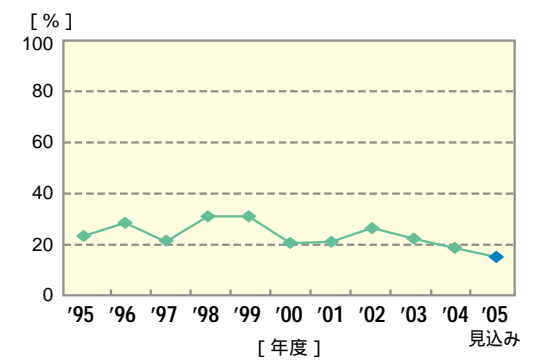
廃棄物発生量



廃棄物最終処分量



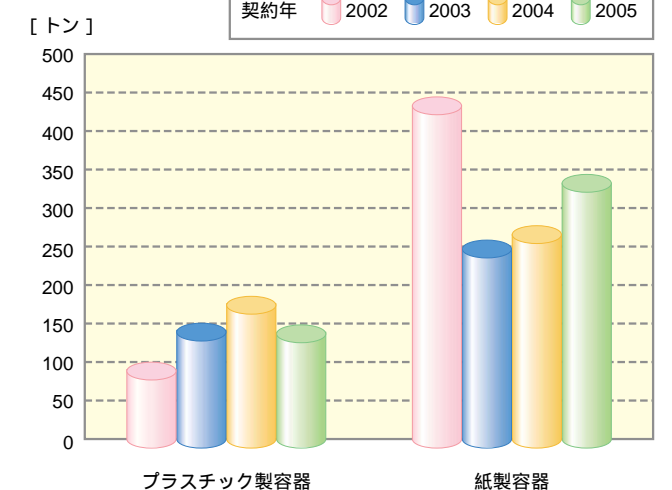
廃棄物リサイクル率



容器包装リサイクル法の再商品化義務履行の取り組み

2002年度から、主にプラスチックと紙の容器・包装の再商品化義務を履行しました。財団法人日本容器包装リサイクル協会と再商品化委託契約を結び、着実に実施しています。

再商品化義務量



5 保安防災・労働安全衛生に対する取り組み

5-1 保安防災

いわき工場は、危険物・高圧ガスを取り扱う工場です。そのため、保安・防災は工場の最も重要な責務であり、石油コンビナート等災害防止法、消防法、高圧ガス保安法などの法律を順守した設備管理及び運転管理を行っています。更に自主的な管理基準、活動を加えた保安・防災管理を実行しています。

主な保安訓練

緊急事態において各従業員に与えられた役割を迅速かつ的確に遂行できるように、各種の訓練を実施しています。

総合防災訓練

地震による製造装置や屋外タンク等からの漏洩、火災発生等を想定した大掛かりな防災訓練をいわき工場の全職場を対象に年に2回実施しています。2004年度はグループ会社を含む従業員1,100名、さらにいわき市消防本部、いわき市消防団第三支団、いわき南警察署、近隣の区長・自治会長の皆さん25名の協力、監査を得て実施しました。

地域緊急放送設備の更新と増強

緊急事態時に周辺地域に連絡・広報するために、緊急放送設備を、2003年度に2基更新しました。2004年度は、さらに1基新設し、総合防災訓練の時には、地域の皆様のご協力のもとで放送訓練を行いました。

通報連絡訓練

自動連絡システム「おつたえ君」を使用して、グループ会社を含めた全事業所の従業員を対象に年1回、いわき工場に隣接している独身寮の従業員を対象に年1回、合わせて年2回の訓練を実施しています。今後はさらに訓練回数を増やし、連絡能力の向上を目指します。

職場毎の訓練

工場全体の総合防災訓練とは別に各職場では、職場毎に年間計画を立て常備防災隊の指導の下で防災訓練を実施しています。



合成樹脂製造部を中心とした2004年度総合防災訓練



地域緊急放送設備

5-2 労働安全

いわき工場では安全衛生委員会の下で各種の安全活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰を励行する5S運動、指差し呼称運動、危険予知活動等)を展開しています。

さらに、2004年度には労働安全衛生マネジメント・システム(OHSAS18001)の認証を取得し、危険有害要因を抽出して評価し、年度の具体的な目標値を設定して改善に取り組みました。

いわき工場の労働安全の事故の発生状況は、全般的に化学工業界平均よりも良好なレベルを達成していますが、安全は全てに優先する課題であり、災害ゼロを目指して今後も取り組みます。

休業度数率

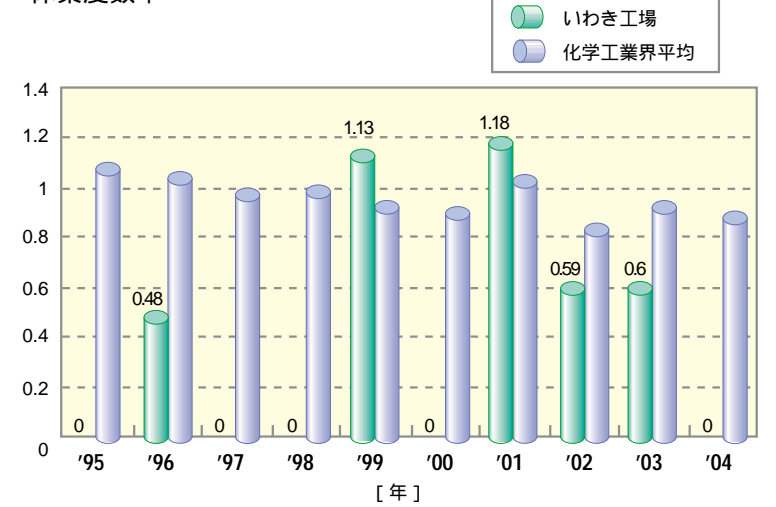
100万労働時間あたりの死傷者の発生頻度を表す。
休業度数率 = 死傷者数 ÷ 労働延時間 × 1,000,000

休業災害強度率

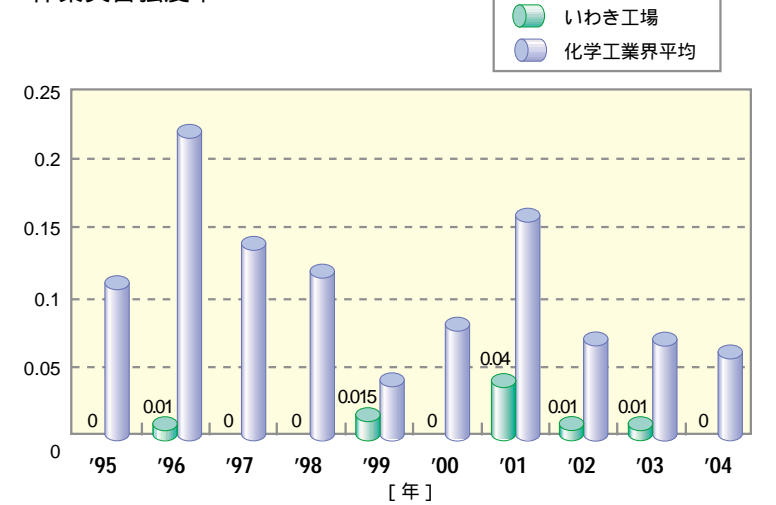
死亡、傷病による損失日数を、その年またはその月の労働延時間数で除し1,000倍したもので、災害の程度の大小を知るための数値。
休業災害強度率 = 総損失日数 ÷ 労働延時間 × 1,000

横軸は、労働基準監督所への報告期間に合わせて[年]としてあります。

休業度数率



休業災害強度率



5-3 保安防災・労働安全対策投資

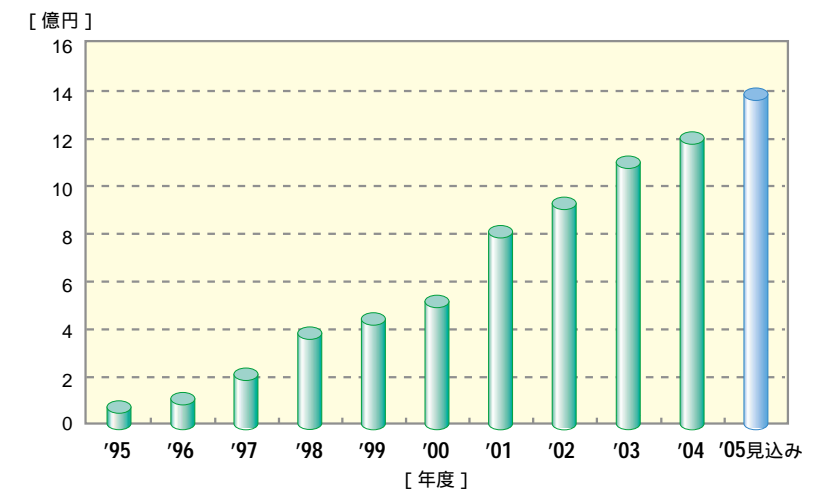
いわき工場の保安防災・労働安全対策投資額の推移を示します。継続的・計画的に、保安設備の改善と作業環境の維持・向上に努めてきております。

2004年度の主な内訳は以下の通りです。

- 作業中の各種安全対策(約10項目)
- 地域への緊急時放送設備増強と無停電装置の導入

今後も継続して保安の確保と労働安全の向上に努めます。

保安防災・労働安全対策投資累積額



6 製品安全に対する取り組み

6-1 製品安全・品質保証

当社は、高機能性材料から一般消費者向けの製品まで多種多様な製品を販売しています。2004年12月医薬品・健康食品を除く全ての製品が、ISO9001：2000年版のスコープに入り、PDCAを回す体制を整え、お客様にご満足のいただける製品・サービスの提供に努めております。

また、薬事法の改正に伴い、医薬品の製造・品質保証体制を全面的に見直し、医薬品と健康食品の安全を管理する部署を新たに設けました。

製品の安全性を確認し、その管理を徹底するため、社内に製品安全に関する審査制度を設け、製品の開発時、上市時、製造方法の変更時などに、関連法規や業界自主基準等に照らして徹底した安全確認を実施しています。2004年度は下記のように、製品、原材料、包装表示等の安全審査を実施しました。特に、食品包装材及び家庭用品については、既存製品も含め全ての原材料の見直しを実施し安全な原材料が使用されていることを確認しました。

審査対象	審査体制	2004年度件数
新規購入原材料	新規購入原材料安全審査	51件
新製品、開発品、工程変更品	新製品安全審査	51件
安全文書(包装表示、広告、MSDS等)	安全文書審査	236件

さらに、最近では国内や海外に生産や加工を委託するケースが増加しております。外注先での製造や管理が委託した通り行われているか、品質保証体制が整備されているかなど定期的に確認することも重要です。このため、2003年から外注先品質監査を実施し2004年度でほぼ全ての外注先の品質監査が終了しました。今後も継続し、引き続き安心してお使いいただける製品供給に努めていきます。

6-2 グリーン調達

グリーン調達とは、原材料・資材を調達する際に、環境負荷の少ないものを優先して調達するとともに、有害化学物質の不使用、削減を目指す活動です。欧州連合(EU)は、電気・電子機器へのカドミウム等の有害化学物質の使用規制を進めています。そのような海外の規制に対応するため、電子・電気業界は原材料メーカー、部品メーカーに化学物質管理の徹底を要求し、製品中の含有化学物質に関する情報提供を求めています。当社としても製品の情報を提供するとともに、購入している原材料の調査も実施しています。

7 地域社会とのコミュニケーションに対する取り組み

いわき工場は、「地域との共生」をテーマに、従業員及び地域の方々と互いに良好なコミュニケーションを保ちながら、その基盤の上になって地域社会の発展に取り組んでいます。

地域説明会から 地域対話集会へ！

第2回レスポンシブル・ケア「地域対話集会」開催

2004年11月に、行政・団体・地区役員105名をお招きし、第2回レスポンシブル・ケア地域対話集会を開催しました。

質疑では臭気問題・防災問題等について意見交換が行なわれました。



地域対話集会(2004年11月)

医療での地域貢献

呉羽総合病院は、当社の付属診療所として1944年に開設され、1972年に社団医療法人呉羽会「呉羽総合病院」として独立しました。現在では、いわき市南部の中核病院として広く県外からの来院も増え、2004年度は外来・入院の患者数が延べ23万人に達しました。

「院内ふれあいコンサート」は、年3回開催しており、入院中の患者さんや地域の皆さんのひとときの安らぎになればという事で、病院の後援のもと、医師や看護師、職員のボランティアで構成された委員会によって行われており、患者さんを力づけるだけでなく、地域に根ざした音楽活動となっています。



院内ふれあいコンサート

地域社会との交流 双方向のコミュニケーション紙「にしき」の発行

いわき工場から地域の方々への環境や安全に関わる情報及び地域の方々の意見・要望などを相互に紹介するため、双方向のコミュニケーション紙「にしき」を発行しています。

最新号では、第2回レスポンシブル・ケア「地域対話集会」の特集と地域とのコミュニケーション「地域小学校への理科授業」などを紹介しました。

第6号：2004年5月15日 大高「ふれあい広場」
いわき工場の品質保証への取り組み

第7号：2004年9月15日 工場見学の特集
化学物質排出把握管理促進法

第8号：2005年1月10日 第2回レスポンシブル・ケア「地域対話集会」
地域小学校への理科授業



第6号「にしき」

8 環境保全商品の開発に対する取り組み

清掃ボランティア

いわき工場の排水を放流する「蛭田川」の堤防の美化活動の他、6月と10月の年2回、工場の周囲約4kmにわたって国道・県道・市道の美化活動を行っています。

2004年度は、延べ約1,100人の従業員が参加しました。



小学校理科授業

近隣の2つの小学校の6年生を対象に、従業員が講師を勤める理科授業を行っています。2004年度で6回目を迎えました。

みな楽しそうに授業に取り組んでいる姿が印象的です。



スポーツ・フェスティバル

クレハ・グループ各社の従業員とその家族の親睦、そして、地域の皆さんとの交流を深める目的で開催されているこの大会は、2004年度で4回目を迎えました。

近隣の自治会・商店会の皆さん、なこそ授産所・子供の家保育園の皆さん、勿来地区小・中学校のリレーの選手の皆さんを招待し、総勢1,600人が参加して秋の一日を楽しみました。



いわきおどり勿来大会

7月に開催された「いわきおどり勿来大会」は、31団体、約1,900人の踊り手が参加しました。

クレハ・グループからは、約160人が参加し、お揃いの浴衣で「ドンワッセ」の音頭で祭りを盛り上げました。



工場見学

いわき工場をもっとよく理解していただくために、近隣の方々を中心に積極的に見学を受け入れており、2004年度は47件、1,470人の方々に見学いただきました。過去5年間では、219件、約6,300人の方々に見学いただきました。



四時ダムまつり

7月に開催されたダムまつりに参加し、「ジャンケンとピンゴによるゲーム」でまつりを盛り上げました。

テントへの来場者も700人を越え、大好評の一日でした。

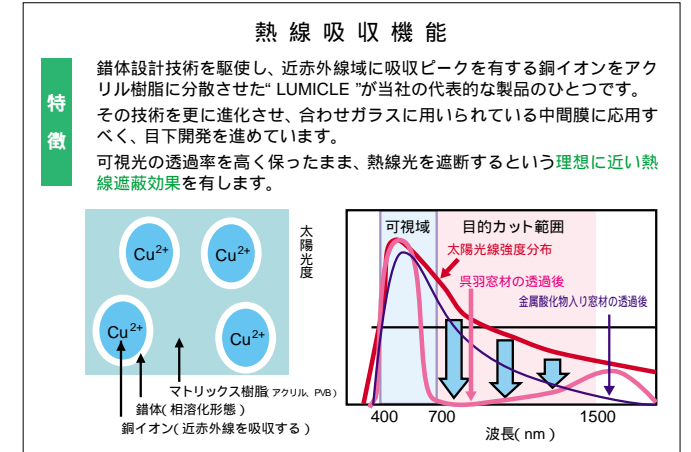


熱線吸収材

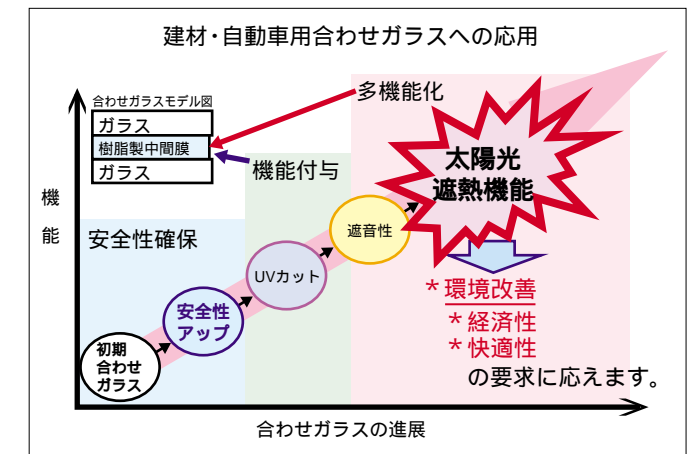
太陽光には熱源である赤外領域の波長も含まれており、夏場の炎天下では外に面したガラス張りのビルや自動車の内部では室温が非常に高くなります。そのため、多くのエネルギーを冷房に費やしています。この冷房に費やすエネルギーは火力発電などにより賄われるため、二酸化炭素が排出され、地球規模での温暖化の一つの要因となっています。

当社は上記の問題に対処すべく、現在「熱線吸収材」の開発を行っています。これは、当社のレンズ、光学フィルターなどの光学材料にかかわる光波長制御技術を発展させた開発中の製品のひとつです。この光波長制御技術とは、太陽光のうち可視領域の波長は透過させ、銅錯体により赤外領域の波長を効率よく吸収するものです。この材料を、従来からある車や建材用の合わせガラスに応用し、太陽光の遮熱機能を加えた高機能の窓用材料への展開を検討しています。

この製品の実現によって室内への太陽光熱線の侵入が抑えられ、室温上昇が抑制されます。室温上昇の抑制は、冷房負荷の軽減、使用電力の低減に寄与し、結果として二酸化炭素の発生が抑制され、地球温暖化対策に貢献することが期待されます。また、身近な効果としては光熱費を低減しつつ、明るく涼しい快適空間を提供することが期待できます。



熱線吸収機能



熱線吸収材の展開

金属クリップレスロケット包装体 (クレハ自動充填機「KAP3000型」)

クレハロンフィルム(塩化ビニリデンフィルム)を使い、従来のアルミワイヤーによるクリップ(結紮)を行わず、クレハロンフィルムのみでソーセージのロケット包装体を形成できるクレハ自動充填機「KAP3000型」を完成し、ユーザーへ紹介しています。

従来、半世紀近くにもわたり、レトルトあるいはポイルで熱殺菌する魚肉や畜肉ソーセージは、両端をアルミワイヤーでクリップしロケット包装体を形成していました。アルミワイヤーに代えて包装体と同材質のクレハロン・テープをシール部の補強材として付加することで、金属を使わずに所定の耐圧を実現できる「KAP3000型」を開発いたしました。この、「KAP3000型」の導入により、製造工程において金属検知器の使用が可能となり、廃棄段階で金属アルミニウムを捨てることなくります。また、製造コストの低減も見込めます。

今後は、ソーセージへの採用の拡大はもちろん、ソーセージ以外の用途への拡大を図っていきます。



9 グループ会社のRC活動

クレハプラスチック株式会社

会社概要

設立：1969年2月12日
 資本金：3億4,820万円
 従業員数：424人
 売上高：120億円(2004年12月)
 本社所在地：茨城県新治郡玉里村上玉里2221番地
 工場所在地：茨城工場
 茨城県新治郡玉里村上玉里2221番地
 柏原工場
 兵庫県丹波市柏原町北中150番地
 ホームページ：http://www.cpkureha.co.jp

RC活動の概要

当社を支える3つの柱として、ふたつのISOとTPM (Total Productive Maintenance)活動を位置付けています。当社は、レスポンスブル・ケア活動として環境マネジメント・システム(ISO14001)及び品質マネジメント・システム(ISO9001)を活用し、継続的改善を推進しています。

環境マネジメント・システム

環境管理システムの国際規格であるISO14001の認証を2002年11月に取得し、環境保全に積極的に取り組んでいます。エネルギー使用量や廃棄物の削減を積極的に進め、継続的な改善活動を図っています。

品質マネジメント・システム

1996年2月、全部門を対象としたISO9001の認証を取得しました。このシステムを有効に活用し、品質方針にもとづき、製品群毎に重点改善項目と改善目標値を設定し、品質の継続的改善を進め、顧客満足度の向上につなげています。

労働安全衛生マネジメント・システム

KYK(危険予知訓練)を強化し、保安計画を実行して、人と設備の安全を確保するため、労働安全衛生マネジメント・システム(OHSAS18001)の導入を目指しています。当社で働くすべての人々の労働災害、交通事故及び職業病を含むすべての疾病をゼロにする目標に向かって各種の施策に取り組んでいきます。

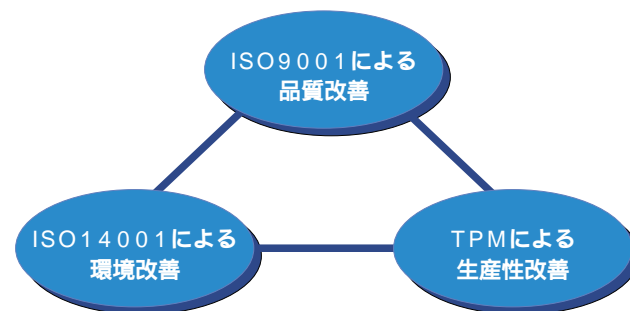
環境に優しい製品の製造

ML-VS系フィルム：加工肉のパウチ用フィルムが従来より薄くても、強くてバリア性能も変わらない製品を提供しています。

クレラップ：パッケージをスリム化し、女性の小さな手でも持ちやすくなり、省資源にも貢献しています。

会社紹介

当社は1969年、クレハ・グループの包装材料生産部門として発足しました。以来、クレハ・グループ独自の樹脂加工技術を駆使した、優れた食品包装材料(クレラップ、クレハロンフィルム、多層ボトル、多層フィルム)の製造を通じ、成長を続けてまいりました。



2004年度の主な活動状況

実施項目		2001年度基準	
		計画	実績
1.エネルギー使用量の削減	電力使用量の削減	3%	13%
	A重油使用量の削減	3%	16%
2.廃棄物発生量の削減	プラスチック埋立量の削減	7.5%	22%
	産業廃棄物量の削減	15%	66%
	一般廃棄物量の削減	60%	68%
3.クリーンウォーキングの実施 茨城工場から霧ヶ浦までの道路及び霧ヶ浦湖畔約5kmのゴミ拾いを5月と10月の2回行っています。2004年度は、延べ146人の従業員が参加し、910kgのゴミを収集しました。			



クリーンウォーキング

加古川プラスチック株式会社

会社概要

設立：1959年10月8日
 資本金：9,500万円
 従業員数：130人
 売上高：33億円(2004年12月)
 所在地：兵庫県加古川市野口町古大内510
 ホームページ：http://www.kakopura.com/

RC活動の概要

ISO9001認証取得時期は、1994年で、認証番号は、JQA-0559と若く、設立以来、品質、サービスをモットーに活動してきました。またISO14001認証取得は、2004年7月(JQA-EM4120)で、省エネ・産廃の削減に取り組んでいます。

また、地域社会への取組みも、住宅区に工場が立地していることから環境を重視して取り組んでいます。昨年から、加古川市が提唱していますアイドリング・ストップ運動に参加し、アイドリング・ストップ宣言の事業所として活動しています。

品質方針

「顧客が満足する高品質製品と良いサービスをタイムリーに提供する」

環境理念

「加古川プラスチック株式会社は、環境保全の重要性を深く認識し、事業活動を通じて地域、地球環境の維持、向上に貢献する」

環境方針

事業活動において環境マネジメント・システムを構築し、運用する

当社の事業活動における環境側面を認識し、継続的な環境マネジメント・システムの向上と環境汚染の予防に努める

環境に関する法令、条例及び当社が受け入れた利害関係者の要求事項を順守する

環境活動の向上のため、目的、目標を設定し、構築した環境マネジメント・システムを有効に活用する

当社の全従業員は基本方針を認識し、構築した環境マネジメント・システムを有効に活用する

本方針は全従業員に周知するとともに一般にも公開する

会社紹介

当社は兵庫県一の河川、加古川の平野部に1959年に創立しました。瀬戸内海に面し温暖な気候にめぐまれた自然環境の中、電気エネルギーを効率的に活用する、金属化フィルム・コンデンサ材料を中心に生産、販売してきました。主要製品は、金属化(蒸着)フィルム・コンデンサ材料、工業材料用フィルム・スリット加工、電線用銅蒸着品、2層銅張積層板です。



省エネと廃棄物量の削減

	2003年1月～ 2003年12月	2004年1月～ 2004年12月	2005年1月～ 2005年3月
エネルギー(電気を含む)原単位 原油換算kL/売上(百万円)	0.60	0.57	0.55
廃棄物発生量比	100	98	21
廃棄物リサイクル率 %	60	70	81

クレハエクステック株式会社

会社概要

設立：1982年2月10日
 資本金：3億円
 従業員数：110人
 売上高：26億円(2004年12月)
 所在地：茨城県かすみがうら市宍倉5691
 ホームページ：http://www.kureha-xt.co.jp

RC活動の概要

経営方針に「クレハ・グループの一員としてRC活動に参加し、環境に配慮した企業活動を行う」と明記し宣言しました。全員配付の「社員必携ノート」にも、クレハグループ倫理憲章、環境方針、品質方針を明記し周知徹底を図ると共に、「RC年度実施計画」に基づき、環境保全・保安防災・労働安全衛生・化学品安全等に配慮した活動を積極的に展開しながら、社会とのコミュニケーションを図っております。

コンプライアンスに対する取り組み

「クレハグループ倫理憲章」に基づき、2004年2月「コンプライアンス規程」を制定し「コンプライアンス委員会を設置」、2004年8月には「コンプライアンス相談窓口取扱規定」を制定し「相談窓口」を開設、また「コンプライアンス・ハンドブック」を作成・配付し「行動基準」を明確にして、実践活動中です。

環境及び品質に対する取り組み

当社は、近くに霞ヶ浦を有し周囲を林に囲まれた静かな環境の良い所に立地しております。生産活動は、「常に自然を守りつつ、人々の生活に役立ち満足頂ける製品を夫々のニーズにお応えしながら提供すること。」を念頭におき社員一同、日々努力しています。

品質と環境のマネジメント・システム

ポリエチレン・パイプは、1972年10月にJISを取得、それを基盤に1999年2月ISO9001を取得しております。2004年は、レスポンシブル・ケア活動規程を中核とした当社独自の環境マネジメント・システムを構築し、取引会社のグリーン調達サプライヤーの資格を取得しました。品質目標・環境目標を設定し、継続的な改善活動を展開しています。

省エネ活動

契約電力量を1,900kWhから1,700kWhに変更し、対前年比11%電力使用量を削減しました。ただし、エネルギー絶対量は減少しているものの、エネルギー原単位は増加しました。

会社紹介

当社は1959年三晃工業株式会社として創立(東京都大田区羽田) 硬質塩ビフィルム・シートメーカーとして創業を開始しました。その後1972年に現在地に移転、ポリエチレンパイプ製品(水道・農業・工業用)及びプラスチック成型品(食品容器・レンズ/ICチップトレイ他)を製品群に加え、プラスチック・フィルム・シート製品(非収縮多層フィルム、オーバーレイ多層フィルム、半導電シート他)と併せ生産販売を行っております。そして2005年4月、当社の技術基盤である押出技術(Extrusion Technology)を社名に取り入れ、クレハエクステック株式会社に社名変更しました。

産業廃棄物排出削減

当社の廃棄物は、殆どが廃プラスチック類で例年600トン~700トン発生しており、削減策として収率向上はもとより社内外のリサイクル化、固形燃料化等を進めております。2004年度は再資源化を図ることにより、最終埋立量を対前年比60%減の186トンとすることができました。

排水管理

地盤沈下防止策としての揚水量規制674トン/日を厳守すると共に、排水の水質も規則値の範囲内で管理しております。

労働安全衛生活動

2004年8月には「メンタルヘルス規程」を制定し相談窓口を開設、10月には産業医による研修会を開催し実践中です。2004年度(1~12月)及び2005年1~3月は、労働災害の発生はありませんでした。

	2003年 (1-12月)	2004年 (1-12月)	2005年 (1-3月)
エネルギー(電気を含む)原単位 原油換算kL/売上(百万円)	0.64	0.69	0.82

クレハ合繊株式会社

会社概要

設立：1963年4月1日
 資本金：1億2,000万円
 従業員数：111人
 売上高：31億円(2004年12月)
 所在地：栃木県下都賀郡壬生町元町1-63
 ホームページ：http://www.kureha-gohsen.co.jp

RC活動の概要

クレハグループ倫理憲章を基本として

コンプライアンス委員会、レスポンシブル・ケア(RC)委員会を設け、RC委員会の分科会として安全衛生、品質保証及び環境管理の3委員会を月1回開催し、各委員会を中心にRC活動に取り組んでいます。

安全衛生への取組

基本理念「わたしたちは、小さな危険を見逃さず改善を積極的に進め、健康で安全な明るい職場環境づくりを目指し、無事故・無災害を達成します。」を元に活動し、2004年度(2004年1月~2005年3月)は、労働災害はありませんでした。2006年6月に労働安全衛生マネジメント・システム(OHSMS)の認証取得を目標に活動を開始しています。

品質保証への取組

基本理念「わたしたちは、経営理念と運営方針を達成するために品質に関わる総合管理を展開し、品質の信頼性、顧客満足度を高めていきます。」を元に活動し、顧客クレームを継続的に削減しています。2004年10月にISO9001:2000を全社に拡大して認証を取得し、品質マネジメント・システムの構築に努めています。

環境への取組

基本理念「わたしたちは、経営理念の達成を目指し、当社が製造する「合成繊維・成形品」及びその開発・生産・販売・サービスのあらゆる活動において、環境影響に対して適切であるように、環境目的・目標を設定し、継続的改善及び汚染の予防に積極的に取り組み、社会と自然に対して貢献します。」を元に次のような活動をしております。また、2005年3月にISO14001:1996の認証を取得し、環境マネジメント・システムの構築に努めるとともに、ISO14001:2004の認証を2006年3月までに取得する準備をしています。

省エネ活動

2004年度は、2003年度に対し電気使用量11%削減

会社紹介

経営理念である「わたしたちは、一人ひとりの心と夢を大切に、誠実を旨として、創造性と優位性のある「コア技術」を絶え間なく追求し、お客様から信頼される「only one」の環境に優しいプラスチック加工会社として、社会に貢献しつづけます。」を基本として、「モノ系を中心とした合成繊維製造」及び「射出成形用金型・成形品の製造」を行っています。

(520万kWh 466万kWh)及びA重油使用量7%削減(490kL 456kL)を達成しました。

地域社会との共生活動

毎月1回「環境デー」を設け、工場周辺の清掃を実施しています。

環境に優しい製品の製造・販売

生分解性樹脂製品「エコルティア」を製造し、販売しています。

水質浄化製品の製造・販売

「バイオボール」、「バイオループ」他を製造し、販売しています。



環境デー

環境問題の解決に!! 水資源を有効活用するために!! 環境経営に貢献!!

BIO BALL 超高速過材
バイオボール

FILTERING MEDIA

バイオボールの機能
 ▶優れた柔軟性・弾性回復性・汚泥吸着性
 ▶安心して使える高耐久性・高耐薬品性
 ▶低圧力損失による高速ろ過速度

バイオボール使用例
 ▶下水の二次処理水ろ過
 ▶合流式下水道のCSO対策(雨水対策)ろ過
 ▶観音池の循環水ろ過

バイオボールは海外でも活躍しています。

バイオループ 水処理用材料
WASTE WATER PURIFICATION MEDIA

バイオループの機能
 ▶汚泥発生量を大幅削減
 ▶運転管理の容易性
 ▶原水の負荷変動に追随

バイオループ使用例
 ▶工場排水プラント
 ▶一般雑排水処理設備
 ▶選析排水処理設備

廃棄物ゼロを目指して!!

エコルティア 生分解モノフィラメント
BIODEGRADABLE MONOFILAMENT

エコルティアの機能
 ▶特殊紡糸技術による高強度特性
 ▶複合技術による熱融着特性

エコルティア使用例
 ▶農林水産業用資材
 ▶土木資材

生分解プラスチックとは
 自然界の微生物や分解酵素によって水と二酸化炭素に分解されて行く。自然に還る「プラスチックです。燃焼させても発生熱量が低く、CO₂等の有害物質が放出されることはありません。

呉羽運輸株式会社

会社概要

設立：1962年8月25日
 資本金：3億円
 従業員数：175人
 売上高：83億円(2004年12月)
 所在地：福島県いわき市錦町落合69番地
 ホームページ：http://www.kure-un.co.jp/

RC活動の概要

経営理念『物流品質を高めて“安全で豊かな社会づくり”に貢献する』のもと、呉羽運輸グループはレスポンス・ケア活動により、環境・安全・品質の向上を目指して活動を展開しております。主な活動は以下のとおりです。

環境保全活動

排水中和処理設備の導入と排水管理
 大型車両へのスピードリミッター(29台)とDPF(黒煙除去装置)の装着(26台)
 トレーラー導入による輸送効率の向上
 エコドライブへの積極的な取り組み

物流安全に関わる活動

安全活動“アタック0”の推進：呉羽運輸グループ・協力会社が参加する予防安全活動
 安全作業実技訓練：タンクローリー・一般トラック部門
 全社安全研修会：原因究明手法の研修(なぜなぜシート)の作成)

各事業所の安全大会

- ・KYT(危険予知訓練)の開催
- ・安全運転・作業の指導教育
- ・不安全設備改善の推進

事故削減への取り組み

- ・事故原因の究明と対策
- ・無事故継続日数の延長
- ・ISO9001：2000認証取得(2001年)
- ・安全性優良事業所(マル適マーク)を7事業所で取得

保安防災に関わる活動

液体塩素漏洩時の通報と処理訓練
 苛性ソーダ漏洩拡散防止訓練
 各事業所での通報訓練

地域・社会活動への参加

市民総ぐるみ運動への参加
 勿来海水浴場の清掃参加
 交通安全協会キャンペーンへの参加

会社紹介

常に「輸送の安全と信頼」を事業の基本理念として物流サービスの向上に努め、顧客企業との共栄に努めてまいりました。新世紀を迎えた今、これまでに培ってきた輸送技術とノウハウを活かしながら、私たちはさらなる発展を目指しています。



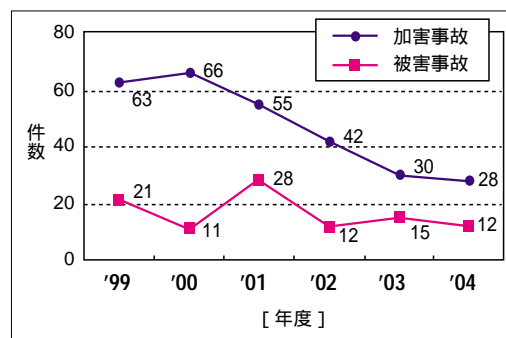
排水パトロール



周辺道路の清掃活動



安全運転指導教育



2004年の車両総稼働数：152,973回
 稼働1万回あたりの加害事故発生件数：1.83件(前年2.15件)

クレハ建設株式会社

会社概要

設立：1956年3月10日
 資本金：3億円
 従業員数：136人
 売上高：83億円(2005年3月)
 所在地：福島県いわき市錦町綾ノ町16番地
 ホームページ：http://www.kurehakensetsu.co.jp

RC活動の概要

コンプライアンスの実践

クレハグループ倫理憲章を順守することを宣言し、「コンプライアンス規程」を制定し、「コンプライアンス・ハンドブック」を配付しました。

環境保全

環境マネジメント・システムである「ISO14001」をグループ4社が同一認証取得することを目指し、社内推進委員会を発足させ検討や対応を進めてきました。(2005年7月に受審し、認証取得しました。)

建築廃棄物のリサイクル率のアップ、廃棄処分量の削減に努力しています。

グリーン調達についての調査を進め、逐次実行して行きます。

保安防災

労働災害の撲滅に向けて努力していますが、2004年度は2件の休業災害が発生しました。これらの労災を撲滅するため、労働安全衛生システム(COHSMS)を2006年1月に導入すべく準備を進めています。

安全パトロールは年間87回実施致しました。内訳として「社長による現場パトロール：12回」をはじめ、請負業者との合同パトロール等を行っております。

品質保証

ISO9001を実行し継続的な改善を図り、顧客満足の向上を図っています。その中で、クレームやお客様のご要望については、迅速に対応するとともに「品質向上検討会」において原因を究明し、再発防止に努めております。

地域社会との交流

クレハ・グループとしての蛭田川清掃活動、勿来地区の業界対応としての道路美化活動、いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動(年2回)での業界対応に加え、当社グループとして独自に国道289号線の清掃(年2回)、毎月の会社周辺清掃を積極的に実施しました。

地元の高等学校からのインターンシップを受け入れ、当社業務の理解を深めていただきました。

会社紹介

当社は、1956年に呉羽化学工業 錦工場から分離独立し、官庁、民間企業、さらには一般住宅に至る幅広い分野の土木・建築工事の設計・施工を請負う総合建設会社です。

会社方針としては、「お客様の満足の向上」を第一に掲げ、2000年にISO9001を認証取得し、2005年には建設グループ4社でISO14001の認証取得、2006年1月には国土交通省が推薦する労働安全衛生システム(COHSMS)の導入を目指しています。さらに「技術向上研究会」を通じて請負業者と一緒に新技術に挑戦すると共に、品質の向上を図り、「安全衛生協議会」の活動を通して、無事故・無災害の達成に全力を傾注しています。



安全パトロール
 毎月1回「社長による現場パトロール」を実施し、安全の確認をしております。



清掃ボランティア
 全従業員対象 毎月初めに会社周辺(社内・県道・市道)の清掃美化活動(除草、ゴミ拾い等)を行っております。

株式会社クレハエンジニアリング

会社概要

設立：1972年10月2日
 資本金：2億4,000万円
 社員数：313人
 売上高：107億円(2005年3月)
 所在地：いわき市錦町落合 135
 ホームページ：http://www.kureha-eng.co.jp/

主な事業

エンジニアリング
 各種プラント事業
 設備、施設の総合エンジニアリング
 設備、施設の技術コンサルティング
 機器、装置の設置に関する工事
 総合メンテナンス
 設備、装置等の研究、技術開発
 システムエンジニアリング等ソフトウェアの取得、開発、販売

RC活動の概要

クレハ・グループの一員として「レスポンスブル・ケア方針」に則り、当社独自のRC活動を以下のように実施するとともに、「オールクレハRC協議会」及び「オールクレハRC分科会」に参加し、グループ各社と協調してRC活動を実施しています。

品質及び環境マネジメント・システムの国際標準規格であるISO 9001(品質)、ISO14001(環境)の認証をそれぞれ2002年4月、2004年12月に取得し、RC活動のツールとしてPDCAサイクルをまわし、RC活動の継続的改善を推進しています。

コンプライアンスに対する取り組み
 「クレハグループ倫理憲章」に則り、2004年9月にコンプライアンス委員会を発足し、「コンプライアンス・ハンドブック」、「行動基準解説書」を全社員に配付、コンプライアンス研修会を開催、また個人情報保護規程の制定も行い、コンプライアンス精神の社内啓蒙も行い、かつ実践中です。

労働安全に対する取り組み
 受注した設備について、品質確保、納期厳守とあわせて、無事故・無災害で工事を完了し納めるのも当社の大きな使命の一つです。

年1回、「安全衛生大会」を開催し、安全衛生活動の振り返りと「安全衛生管理方針」の徹底、及び同活動の優良協力会社並びに優良社員の表彰を行っています。月1回の安全担当者会議では安全順守事項等の徹底を図っています。さらに、工事現場では毎日、



会社紹介

クレハエンジニアリングは、常にお客様の立場に立ち、品質の高いエンジニアリング、メンテナンス技術を提供することにより、お客様から信頼されることを行動規範としております。水処理技術・ガス処理技術・廃棄物焼却処理技術等の環境保全に関する高い技術と独自のプロセスを有しており、一般プラント技術と合わせ、幅広くお客様に提供しております。クレハ・グループのエンジニアリング・センター、メンテナンス・センターとしてグループ各社にも製品、サービスを提供し、信頼を得ています。

朝の安全ミーティングを行い、安全確認やお互いの連絡を確実にし、安全を誓ってから作業を開始しています。

環境保全事業に対する取り組み
 当社は環境保全に関する高い技術と独自のプロセスを有しており、一般プラント技術と合わせ、幅広くお客様に提供し、環境保全のお役立ちをしております。その例として右に主な環境保全技術の紹介をいたします。



水質改善技術
 赤水防止、水のpH調整、水道管の腐食防止に幅広く、人にやさしい水づくりに貢献しています。



アオコ発生抑制技術
 対象となる湖沼水面の一部を遮光することにより、アオコの発生を防止します。



溶剤回収・排ガス処理技術
 排ガス中に含まれる溶剤の回収や、排ガス中の有害・悪臭物質の除去を目的とした排ガス処理装置です。



廃棄物焼却技術
 ダイオキシン類を極力生成させない、無公害で経済性を追求した総合廃棄物焼却設備です。

呉羽環境株式会社

会社概要

設立：1971年12月1日
 資本金：1億6,000万円
 従業員数：199人
 売上高：42億円(2005年3月)
 所在地：福島県いわき市錦町四反田30番地
 ホームページ：http://www.kurekan.co.jp

RC活動の概要

地域交流
 2004年7月22日に新事務管理棟が完成しました。新事務管理棟のロビーは地域社会との交流ホールになっています。また、北側には緑地公園を設置し、周辺環境との調和を図っています。公園はどなたでもご利用いただけます。

環境対策
 地域環境対策を最優先課題として取り組んでおります。特に臭気対策については、保管倉庫や局所排気ラインの設置等の取り組みを実施しました。今後さらなる地域環境対策を計画・実行してまいります。

保安防災
 消防法、廃棄物処理法等の関係法令を順守した設備管理及び運転管理を実施しています。近隣地区役員の方々に、防災に対する取り組みを見学していただき、ご意見をいただいております。

ISO14001/エコオフィスの認証
 ISO14001の認証を、業界のトップを切って取得しました。また、福島県が認証する「エコオフィス」についてもいわき市で一番目に認証を受け、グリーン購入等、地球環境保全を推進しています。

環境教育
 廃棄物をテーマに、小・中学校、高校、大学に講師を派遣したり、会社においていただいて、廃棄物がどのように処理されているかを中心に勉強しております。

交通安全
 「私のまちのセーフティー・マップ」を作成し、従業員及び家族に配布しました。また、いわき南警察署や市内の学校、図書館などに寄贈させていただきました。



ISO14001認証

会社紹介

当社は、高性能な大型焼却炉を2系列持ち、医療廃棄物や処理困難物に区分されるものまで、多様な産業廃棄物を安全に処理してきた長年の実績を有しています。核心となる高温燃焼の焼却炉に加え、燃焼ガスの急冷と排ガス処理など、ダイオキシン類の発生を抑制したシステムとして国内外にライセンス供与もしています。1998年には、業界のトップを切ってISO14001の認証を取得しました。

また、大規模な不適正保管廃棄物の撤去処分などの修復事業も実施しています。廃棄物の適正処理と同様、この種の環境修復も重要なことと捉え、廃炉の撤去から処理までの計画・実施技術も提供しています。



地域交流ホール



緑地公園



展示コーナー



地域の皆様方の見学会



環境対策(保管倉庫設置)



カールドルから局所排気ライン設置



防災訓練



エコオフィス認証



環境教育



「私のまちのセーフティー・マップ」
 いわき南警察署へ寄贈

株式会社クレハ分析センター

会社概要

設立：1990年11月14日
 資本金：5,000万円
 従業員数：124人
 売上高：13億円(2005年3月)
 所在地：いわき市錦町落合16番地
 ホームページ：http://www.kureha-bunseki.co.jp

主な事業

クレハ製品検査、工程分析、依頼分析
 環境分析：ダイオキシン類、環境ホルモン、重金属他
 農薬分析：作物残留農薬
 生態影響試験：農薬GLP、化学物質GLP
 有害化学物質：POPs、RoHS対象物質、
 シックハウス原因物質 等
 骨検査
 環境アセスメント

RC活動の概要

当社はオールクレハRC協議会の一員として、クレハを始め関係各社と協調してRC活動を実践しています。

また、グループ会社の中で唯一クレハのいわき工場内に本社を有し、いわき工場のRC活動の一組織として、いわき工場とより一体となった活動を実践していることも当社の特徴です。

具体的な活動は、環境保全、保安防災、従業員の安全衛生活動の他、顧客の信頼性を得るためのCS活動(顧客満足向上活動)の推進や地域での清掃ボランティア活動、高校生などのインターンシップ(企業実習体験)活動への協力等、多岐に亘って実践しています。

環境保全活動

分析業務で発生する環境への排出物や廃棄物の管理や削減の検討、更には除害搭などの適正な運転に努めています。

保安防災活動

従業員の保安防災意識を高めると共に、緊急時の対応訓練のために、年1回、いわき工場の総合防災訓練に参加すること共に、当社自らの防災訓練を毎年1回実施しています。

労働安全衛生活動

従業員の健康維持のために、有機溶媒などの作業環境調査を行っています。

CS活動

顧客の信頼性を得るために、全社あがりの顧客満足向上活動(CS活動)を実践しています。

会社紹介

当社は、クレハが培った化学分析技術をベースに、親会社の製品検査を始め、計量証明事業など幅広い分析・検査事業を深化・拡大してきており、創業以来、業容・業績共、着実に拡大しています。

最近では、環境保全や食の安全・安心の確保が社会の重要なテーマになってきており、当社は、こうした様々な分析ニーズに「正確」かつ「迅速」に応えていくことで、地域社会の環境保全活動や食の安全・安心の確保に貢献してゆきます。社会の要求から、近年、ダイオキシン類の分析を始めとする環境汚染物質の分析、作物残留農薬の分析、生態影響試験、シックハウス原因物質、PCB、石綿などの有害化学物質の分析、骨検査などの需要が旺盛です。

今年新たに環境アセスメント業務を開始しまして、更に地域社会の環境保全に貢献したいと考えています。

地域交流活動

ボランティア活動として、地域の清掃活動に積極的に参加をしたり、高校生の企業実習体験活動に協力して、毎年地元の高校生の実習を受入れています。



河川サンプリング



ダイオキシン類分析



CS発表会



高校生のインターンシップ

レジナス化成株式会社

会社概要

設立：1972年10月18日
 資本金：8,000万円
 従業員数：39人
 売上高：9億円(2005年3月)
 所在地：福島県いわき市錦町堰下66-1
 ホームページ：
 http://www.nishiki-trading.co.jp/resinous/resinous.htm

RC活動の概要

マネジメント・システム

RC活動に対する取り組みは、環境、品質、安全を中心に行っています。環境及び品質マネジメント・システムの国際規格であるISO14001(2004年4月)とISO9001(2000年7月)の認証を取得しております。

グリーン調達

電気業界の環境対策に対応して、環境管理物質の管理・運用に取り組んでいます。取引先会社のグリーンパートナー取得や、各電気メーカーのグリーン調達にも対応しています。製品安全に対する取り組みとして、本年中にグリーン調達の制度を導入予定です。

環境保全

環境負荷の低減に関しては、PRTR法に基づき集計しております。2003年度実績(2004年届出)の取扱物質数は11化合物、2004年度実績(2005年度届出)の取扱物質数は9化合物で、大気、水域、土壌への排出量はほぼゼロでした。

省エネ

エネルギー使用原単位は右のようになっています。

保安防災・労働安全

保安防災・労働安全に対する取り組みは、危険物製造工場であることを考え、防災訓練、教育を中心に行っています。いわきへ移転して10年間、無事故無災害を継続中です。

会社紹介

1972年千葉県松戸市においてエポキシ樹脂の加工工場として設立され、土木工業材料を中心に操業していましたが、1994年いわき市に移転、1999年第二工場の増設を機に、電気・電子材料用接着剤の製造を開始しました。現在は、売り上げベースで電気・電子部門が50%を超えています。電気・電子用接着剤は、大はモーターやトランスの埋め込み用、小は携帯電話やパソコン用の各種部品の絶縁接着、印刷用に用いられています。

	2003年1月～ 2003年12月	2004年1月～ 2004年3月	2004年4月～ 2005年3月
エネルギー(電気を含む)原単位 原油換算kL/売上(百万円)	0.36	0.27	0.28